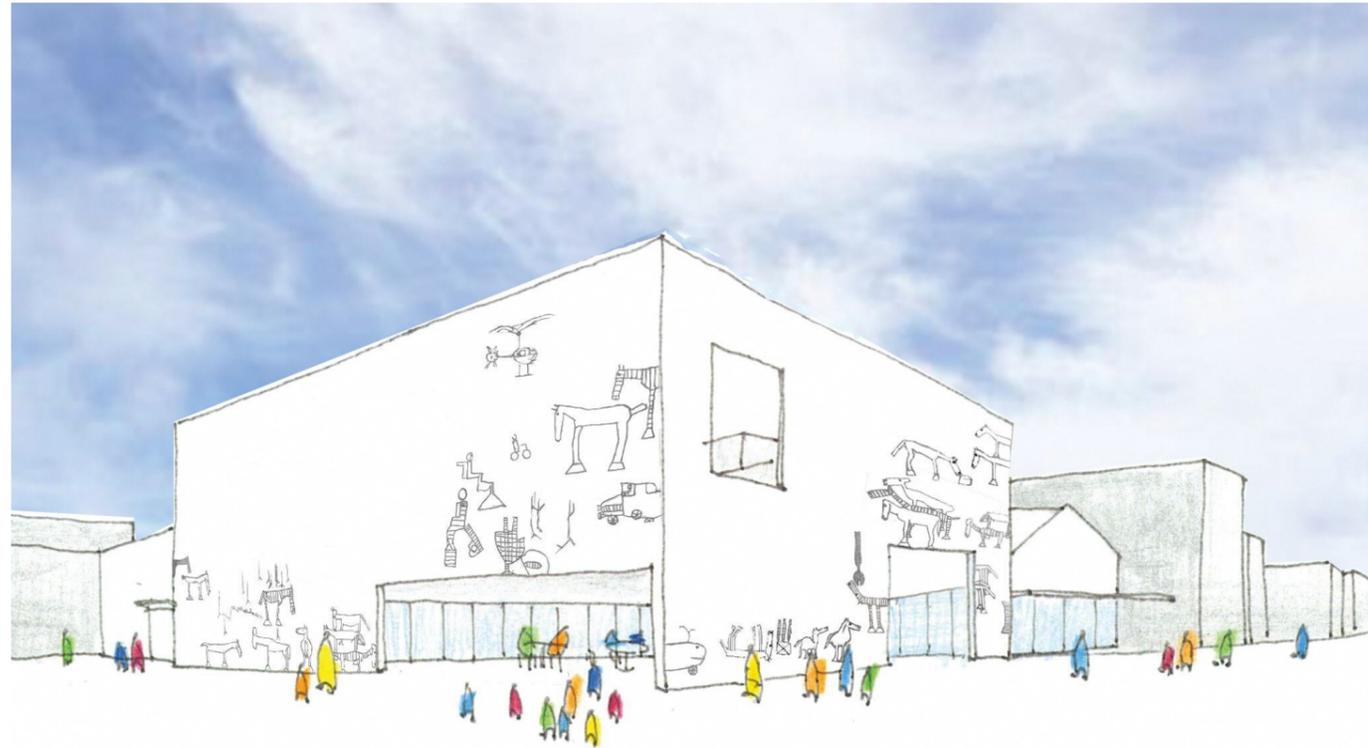
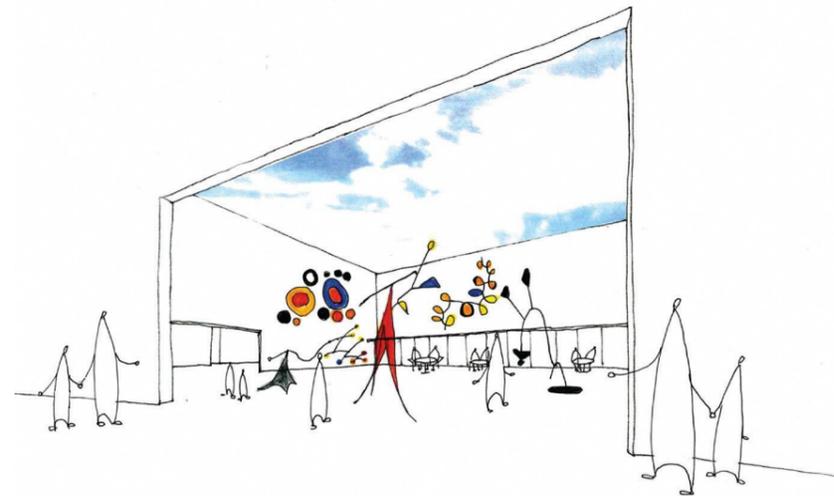


1.中心市街地の将来価値向上



「アートのまちのリビング」

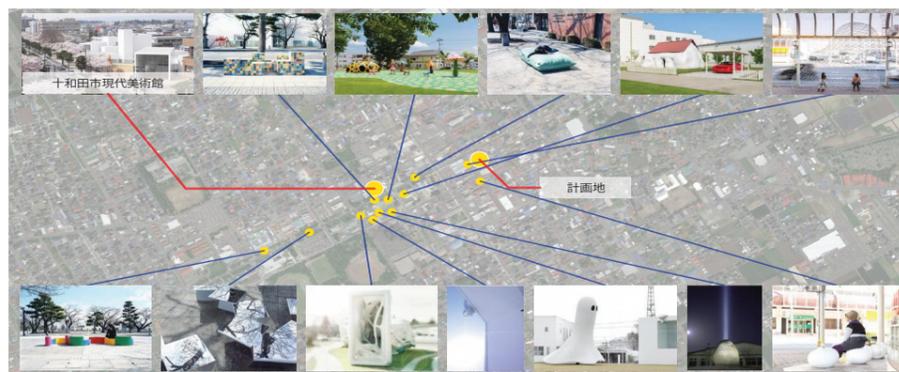
アートと市民の方々の地域交流を融合させた、十和田市の新しい未来に寄与する地域交流センターを提案する。



2.交流の促進

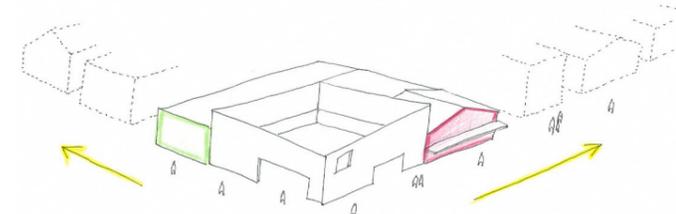
2つの通りの活動呼び込むポケット

商店街エリアの角地という特性を活かし、接する2つの通りと連続し、まちの様々な活動が展開する中庭空間をつくることを考えた。十和田市現代美術館から始まる野外芸術作品やストリートアートファニチャーと連続性をつくることで、人の流れを生み、まち全体に相乗効果をもたらすことを考えた。市民の方々の様々な活動と、現代アートの調和が新しい都市空間を創出する。



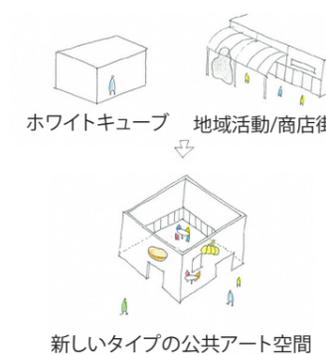
新たなまち並み形成のきっかけとなる

建物ヴォリュームを平屋とし、さらにヴォリュームを分節することで、周囲に対して圧迫感のない計画とする。ヴォリュームを分節することで、今後作られていくまち並みと調和する計画となっている



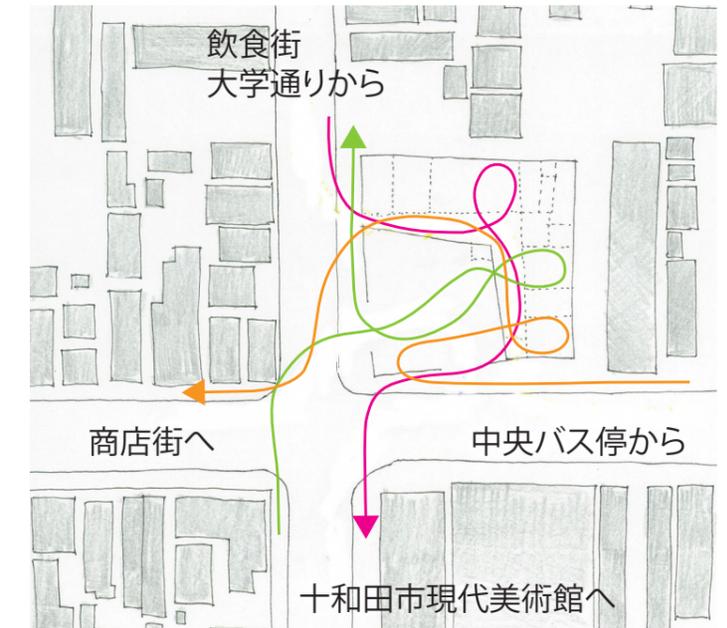
地域に根差した「開かれた展示室」

ホワイトキューブが持つレキシビリティや使いやすさという点と、地域に根差した場所という特性の両方をあわせ持った新しいタイプの公共アート空間。他にはない、新たな都市モデルとして、今後の十和田市の発展に寄与する礎を提案する。



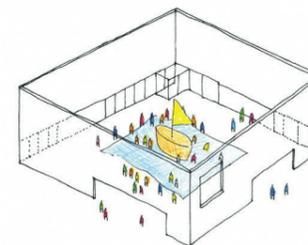
気軽に立ち寄ることができる場所

十和田市現代美術館からの人の流れ、商店街からの人の流れ等、多方向からのアクセスが交差するため、交通機関と連携し、まち歩きの出発点となる。中庭は、カフェのあるロビー空間に面し常時解放されており、屋外アートを鑑賞する観光客の方や、毎日街中を散歩する市民の方が、気軽に通りぬけ、立ち寄れる場所となっている。



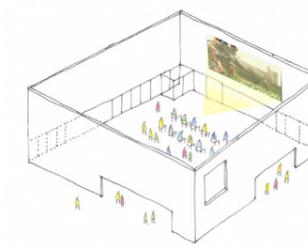
まちの中の大きな部屋 一様々なまちの活動を展開できる中庭空間

子供から大人まで集う
創作ワークショップ



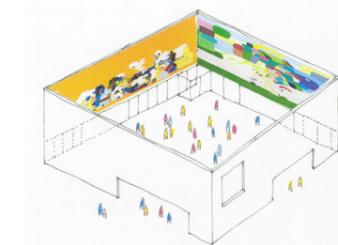
子供から大人まで参加するワークショップや大型の制作を行う空間となる。

地域の上映会



壁に映像を映し出すことで、中庭空間でまちの上映会を開くことができる。

アーティストによる展示空間



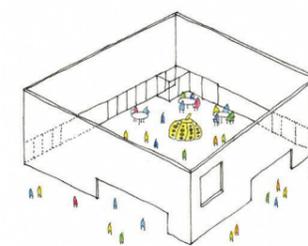
壁の一部が展示壁となることで、中庭が常に開けた無料ギャラリーになる。

地域に密着したアート展示



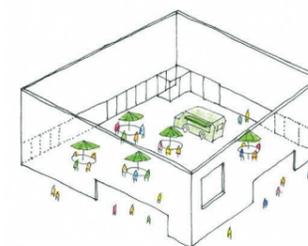
壁面いっぱいに表示することで、アートに囲まれた外部空間となる。

まちのリビングルーム



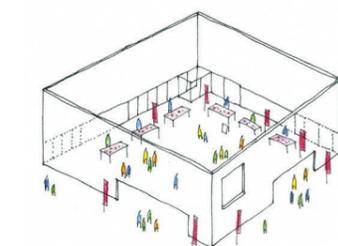
囲われながらも開けた中庭は、のんびりと安らげる空間となる。

食のイベント



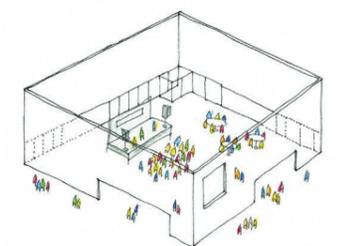
地元のレストランが集まり、青空の下のレストランが生まれる。

フリーマーケットなどの定期市



市民の方や商店街の方が集まり、フリーマーケットなどを開くことができる。

地域一体となるお祭り会場



近隣で催事が行われる時には、中庭が解放され、イベントスペースとなる。

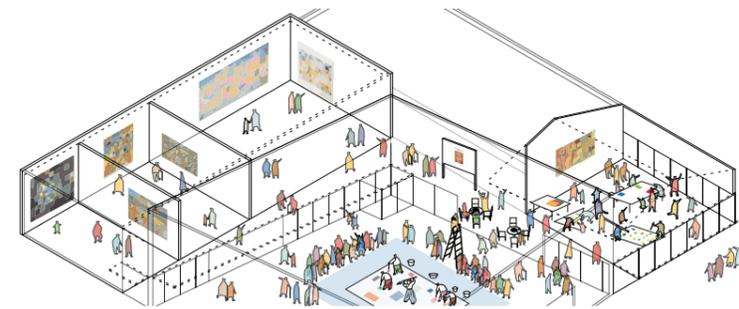
3.敷地のゾーニング



地域の人々が気軽に立ち寄り、新しいアートに出会い、アートを見に来た観光客が地元の活力に出会う

全てのプログラムが中庭に対して開いており、中庭でのイベントや創作活動と連携した使い方が可能。それぞれのプログラムが共有スペースと中

庭に向かって開くことで、地域交流センターの魅力を最大限活かすことが可能。異なる活動が中央に向かって展開することで様々な出会いや発見を生む。



ギャラリー+創作室

ギャラリーを利用するアーティストが市民へ向けた創作ワークショップを行うことができる。



ギャラリー+会議室

ギャラリーの主催者が会議室を使い市民への講演を行うことができる。

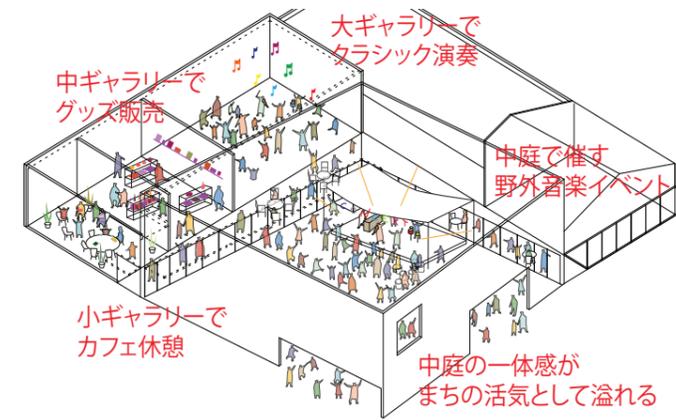


カフェ+創作室

キッチンを併設した創作室で市民が調理をし、カフェで食することができる。

中庭・カフェ・ギャラリー等が連携してさまざまな使われ方をうながす

中庭での屋外イベントやキッチンスタジオを利用した食のイベントの際は、ギャラリーや創作室、キッチンスタジオの壁を大きく開放し、施設全体を使った利用が可能。小ギャラリーや中ギャラリーは、中庭でのイベントに付随する機能として利用することができる。シンプルな平面構成が、多様でフレキシビリティの高い空間構成を生み出しており、市民の方々にとっても使いやすい計画となっている。

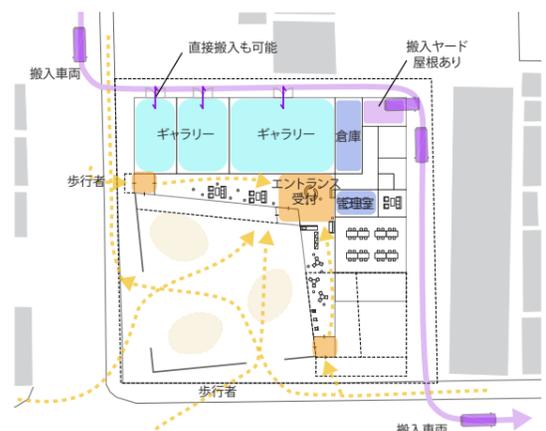


4.その他の提案

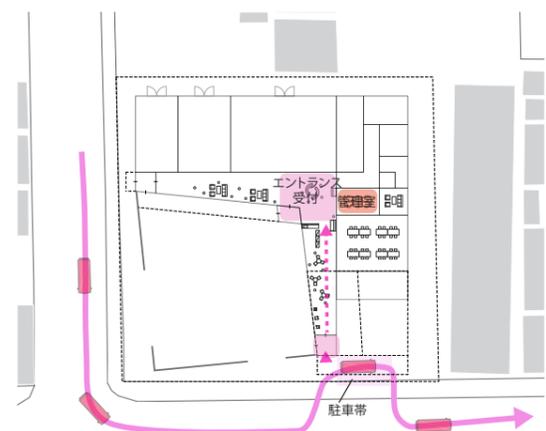
機能的かつ円滑な搬入計画:歩車分離を実現

搬入ヤードと各ギャラリーから直接搬入できる計画。一方通行の搬入動線を確保し、歩車分離が明確で安全な搬入計画を実現する。

建物を道路から後退させることで、エントランスの前に軒下空間と駐車帯を設け、車椅子の方にも対応できる計画とする。



搬入車両動線



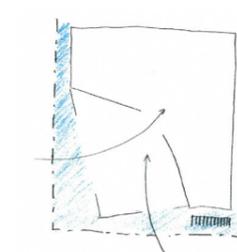
一般車両動線

道路の拡張、バリアフリー

建物を道路側から後退させ、中庭への開口を大きく取ることで、駐車帯と入口へのアクセシビリティを確保する。

地元産材の利用

ロビー床は防滑性のある十和田石を貼り、家具は県産材で作るなど、地域産業の発展に役立つ仕組みを設計段階から検討する。



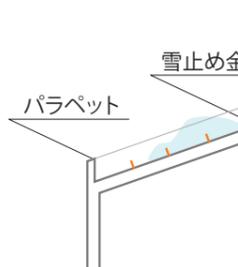
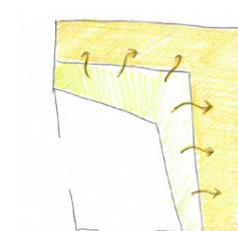
中野産業HPより出典

集中的な空調利用

カフェ空間が建物全体の風除室の役割を果たし、利用室数に応じた効率的な空調管理を行うことで、インシャルコストの削減に繋がる。

積雪への対応

傾斜のある三角屋根では、雪止め金具によって落雪を防ぎ、全周に回したパラペットで雪解け水を速やかに回収することで、すが漏れを防ぐ。



防災拠点

災害時には緊急避難所として機能し、各諸室は災害時の利用スペースとして分類される。中庭は、炊き出し等の物資の受取・供給の場として機能する。

